

# 北上川上流取組方針のフォローアップについて

## 各機関の取組状況等

- ・令和4年度の取組状況
- ・令和5年度の取組予定

第8回  
北上川上流大規模氾濫減災協議会

令和5年6月28日

盛岡市

【R4年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○総合防災訓練や出前講座、市広報を通して、地域住民に対して水害リスクや避難に関する情報のさらなる周知を図る。



市総合防災訓練



市広報による周知

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○令和4年度に引き続き、総合防災訓練や出前講座、市広報を通して、地域住民に対して水害リスクや避難に関する情報のさらなる周知を図る。



市総合防災訓練



市広報による周知

盛岡市

【R4年度取組状況】

○令和4年3月22日に洪水浸水想定区域が新たに指定されたことを受け、市民（特に周辺住民）に対して、洪水浸水想定区域や避難場所等について周知を図る。

○市総合防災訓練や出前講座を通じて、市民の防災・減災への意識醸成を図る。

○防災行政無線のデジタル化への更新  
防災行政無線（同報系）設備の戸別受信機追加配備を進める。

○防災ラジオ及び広範囲災害警報報知システムの一般普及に向けた方向性の検討  
引き続き、防災ラジオの購入環境構築に向けた検討を行う。また、広範囲災害警報報知システムについても、継続してモニター試験を実施し、需要調査及び機器改良に取り組む。

【R5年度取組予定】

○令和5年度中に洪水浸水想定区域の新規指定及び見直しが見込まれていることから、市民（特に周辺住民）に対して、洪水浸水想定区域や避難場所等について周知を図る。

○市総合防災訓練や出前講座を通じて、市民の防災・減災への意識醸成を図る。

○防災ラジオ及び広範囲災害警報報知システムの一般普及に向けた方向性の検討  
引き続き、防災ラジオの購入環境構築に向けた検討を行う。また、広範囲災害警報報知システムについても、継続してモニター試験を実施し、需要調査及び機器改良に取り組む。

花巻市

【R4年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

住民参加型の実践的な訓練の実施

- 花巻市自主防災組織活動ガイドラインの見直し
- 新型コロナウイルス感染症による自宅療養者等の災害時における避難に係る市対応指針の策定
- 医療救護所訓練の実施
- 自主防災組織等リーダー研修会の実施



医療救護所訓練の実施



自主防災組織等リーダー研修会の実施

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

住民参加型の実践的な訓練の実施

- 住民避難など住民参加型の防災訓練を実施。
- 自主防災組織や地域住民への出前講座の実施。
- 広報等を活用した防災知識の普及



住民が参加する防災訓練の実施

洪水・土砂災害だけじゃない  
ハザードマップを使いこなそう！

市では、お住まいの地区にどのような災害リスクがあるか、避難所はどこにあるか、避難の準備方法を考える材料としてだけでなくに「災害ハザードマップ」も配布しています。ハザードマップには避難に役立つさまざまな情報を掲載しています。防災の準備に役立て、災害に備えましょう。

このハザードマップは、災害リスクの情報を提供し、避難の準備や防災意識の向上に役立ちます。また、避難所や避難経路の情報を提供し、災害時の対応に役立ちます。

広報を活用した防災知識の普及

花巻市

【R4年度取組状況】

○令和4年9月に岩手県が発表した、新たな「土砂災害が発生するおそれのある箇所」の区域に含まれていた指定緊急避難場所を、他の場所に新規指定または変更した。

○職員や防災アドバイザーによる出前講座の開催、広報紙での特集ページの掲載など、水害リスクや防災に関する知識の普及に取り組んだ。またこれに加え、新型コロナウイルスの感染予防に関し、避難所での感染予防の取り組みと、避難行動判断フローを活用するなど避難が必要か事前に確認するなど周知に取り組んだ。

○継続的な取り組みとして、浸水想定区域内の要配慮者利用施設の内、未策定施設について避難確保計画策定支援の取り組みを進めた。

○指定緊急避難場所、指定避難所、ペット避難所及びマイ・タイムラインについて広報やHPIにより周知を行った。

【R5年度取組予定】

○継続的な取り組みとして市内4地域で防災訓練を実施する。自主防災組織の参加と住民避難について実施する。

○自主防災組織への研修会・出前講座の開催、広報紙での特集ページの掲載など、水害リスクや防災に関する知識の普及に取り組む。避難行動判断フローを活用するなど避難が必要か事前に確認するなど周知に取り組む。

○継続的な取り組みとして、浸水想定区域内の要配慮者利用施設の内、未策定施設について避難確保計画策定支援の取り組みを進める。

○新たに洪水浸水想定区域の指定がされた稗貫川にかかる要配慮者利用施設に防災ラジオを配布するとともに、台風接近時には大雨の予報等が発表された段階から災害の危険が去るまでの間、避難情報発令の見通しについて対象となる地域の施設管理者へ伝達する。

○引き続き指定緊急避難場所、指定避難所、ペット避難所及びマイ・タイムラインについて広報等による周知を行う。

北上市

【R4年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水防訓練などの演習、訓練の充実

- 東北水防技術競技大会への参加及び北上川上流合同水防演習を実施し、水防技術の研鑽を積み、団員個々の習熟度を高めた。
- 演習などの成果を活かし、災害時の水防活動に迅速かつ適切に対応できるよう備えた。



東北水防技術競技大会への参加



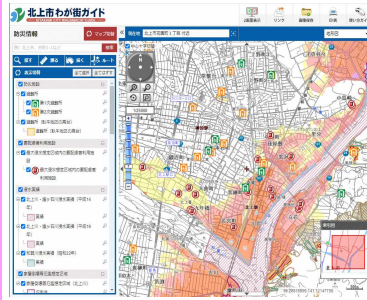
北上川上流合同水防演習の実施

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 新たな浸水想定区域を反映させたデータを作成し、インターネット上のわが街ガイドを更新する。
- 住民へ水害を含む出前講座や自主防災マイスター講習会を実施し、防災に関する知識を深める取り組みを行う。



北上市わが街ガイド



自主防災マイスター講習会

北上市

【R4年度取組状況】

- 宮城県大崎市で開催される東北水防技術競技大会に、北上市水防団が参加した。
- 市を会場として、北上川上流合同水防演習を実施し、大規模氾濫を想定した関係機関と連携する水防活動の訓練を実施した。
- 大会及び演習の参加者で競技結果や演習内容をふりかえり、災害時の水防活動に対応できるよう、改善点等を整理した。

【R5年度取組予定】

- 新たに追加された洪水浸水想定区域を北上市わが街ガイドに反映させる。
- 出前講座や講習会の実施を通して、災害に対する備えや災害発生時の対応等防災に関する知識を深め、地域防災力強化の取り組みを行う。
- 水害リスクについて市広報への掲載やケーブルテレビでの放映等を行い、防災知識の更なる周知を行う。

遠野市

【R4年度実施状況】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及

○災害時の自主防災組織の役割、避難所運営及び避難行動要支援者の対応等に関する研修会の実施し、遠野市防災訓練で自主防災組織による避難所設置・運用訓練及び避難行動要支援者の対応訓練（机上）を行った。



【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及

○災害時の自主防災組織の役割及び避難所運営に関する研修会の実施。



遠野市

【R4年度取組状況】

○自主防災組織を対象に災害時の主な役割、避難行動要支援者に対する行動等について地区別研修会を行った。

○研修会の集大成として市総合防災訓練にて避難所運営、避難行動要支援者の対応について訓練を実施した。

○関係機関との情報連携を図り、地区センターをはじめとする地域の拠点を活かした防災体制をとれるよう調整する。

○小学生に対しての防災学習を開催し、ハザードマップを使い、水害リスクや避難場所等について、指導を行った。

【R5年度取組予定】

○昨年度に引き続き、自主防災組織を対象に災害時の主な役割等について地区別研修会を行う。

○関係機関との情報連携を図り、地区センターをはじめとする地域の拠点を活かした防災体制をとれるよう調整する。

○ハザードマップに関する説明会を開催し、水害リスクや避難場所等について、地域住民に対してさらなる周知を図る。

○避難確保計画の作成支援及び避難訓練の実施を促進させ、対象施設の防災意識の醸成を図る。

【R4年度実施状況】

I. 安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 新たに浸水想定区域の指定となった河川の地域を対象に住民説明会を開催し、水害時の避難等について住民周知した。
- 新たな浸水想定区域を反映した「一関市防災マップ」を更新・作成した。
- 更新した「一関市防災マップ」は、全戸に配布するとともに、市広報・ホームページ、地方紙等により広く市民に周知した。



住民説明会の開催



更新した防災マップ

【R5年度取組内容】

III. 人命と財産を守る水防活動及び排水活動の取組

水防訓練などの演習、訓練の充実

- 北上川上流総合水防演習へ参加を通じ、水防技術の向上及び関係機関との連携を図る。



北上川上流総合水防演習の開催

【R4年度取組状況】

- 令和4年3月に指定された千厩川・大川洪水浸水想定区域について、河川周辺地域の川崎地域、千厩地域及び室根地域の住民を対象に、洪水時の避難対策等について住民説明会を開催した。（延べ120人出席）

- 令和4年3月に指定された千厩川・大川洪水浸水想定区域等を反映した「一関市防災マップ」を更新し、全戸に配布したほか、Web版防災マップも一新した。

- 一関市防災マップは、市広報紙、ホームページ、地方紙などにより広く市民に周知した。

- Web版防災マップは、各種リスク情報を選択表示する機能とし、見やすい仕様とした。

【R5年度取組予定】

- 北上川上流総合水防演習への参加を通じ、水防団の水防技術の向上及び関係機関との連携を図る。

## 八幡平市

1/2

## 【R4年度実施状況】

## I. 安全な避難行動のための取組

## 住民への情報伝達体制の充実

○難聴地域の解消のため、防災行政無線屋外拡声子局を2カ所増設した。



防災行政無線屋外拡声子局の増設

## 【R5年度取組内容】

## Ⅲ. 人命と財産を守るための取組

水防訓練などでの水防技術・知識の習得活動を実施

○北上川上流総合水防演習に参加し、水防技術・知識の習得を図る。



水防技術・知識の習得

## 八幡平市

2/2

## 【R4年度取組状況】

○前年度に更新した防災マップを用いて、地区別に学習会を開催し、水害リスクや避難場所等について、地域住民に対してさらなる周知を図った。

○防災行政無線の屋外拡声子局を2基増設し、難聴地域の解消に努めた。

○前年度に引き続き、防災士養成研修に1名受講させ、自主防災組織リーダー育成を図った。

○市防災訓練を実施し、防災関係機関と地域住民が一体となって組織的かつ効率的な諸活動が迅速かつ的確に遂行できるよう実践的な訓練を行うとともに、併せて地域住民の防災意識の高揚を図った。

○前年度に引き続き、防災出前講座を実施し、地域住民の防災意識の高揚を図った。

## 【R5年度取組予定】

○前年度に引き続き、防災士養成研修に2名受講させ、自主防災組織リーダー育成を図る。

○北上川上流総合水防演習に参加し、水防技術・知識の習得を図る。

○県総合防災訓練を通じ、防災関係機関と地域住民が一体となって組織的かつ効率的な諸活動が迅速かつ的確に遂行できるよう実践的な訓練を行うとともに、併せて地域住民の防災意識の高揚を図る。

○前年度に引き続き、防災出前講座を実施し、地域住民の防災意識の高揚を図る。

【R4年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 胆沢川及び人首川の浸水想定区域を反映したハザードマップを作成し、全戸に配布を行った。
- 北上川流域にある自主防災組織による洪水想定避難訓練の様子を市内各地域でパネル展示し、水害への備えを周知した。



ハザードマップの更新

パネル展による周知

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 防災セミナーを開催し、地域の防災リーダーの育成と市民の防災意識の向上を図る。
- 新たに追加された河川の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域を反映させたハザードマップを基に自主防災組織や各自治会単位による学習会等を開催し、防災知識を深める



住民説明会の開催

【R4年度取組状況】

○自主防災組織、自治会等が開催した防災講座へ市職員、奥州市防災士会「絆」から防災士を派遣し、地域の防災力向上を図った。

○緊急告知ラジオの配布  
自主防災組織や、民生委員、要配慮者利用施設等に緊急告知ラジオを配布し、地域への情報伝達体制を充実させ、住民へのいち早い情報周知と避難行動を支援した。

○ICTによる情報伝達体制の充実市民生活総合支援アプリ「ぼちっと奥州」によるプッシュ型避難情報発信を構築。

○防災士の育成と防災フェアの開催地域の防災リーダーとして日ごろから防災・減災の取り組みの推進や指導、有事の際には避難所の運営等に携わる防災士の育成と奥州市防災士会「絆」と連携した防災フェアを開催しての防災・減災に関する啓発活動を実施した。

○新型コロナウイルス感染症感染予防に鑑み、予定していた「防災セミナー」から防災パネル展を各地域で開催し、多くの市民に防災配発をした。

【R5年度取組予定】

○新たに追加された河川の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域を反映させたハザードマップを活用した、防災意識の向上を図る。

○防災セミナーや防災講座等を開催し、水害リスクや避難場所等について、地域住民に対してさらなる周知とともに地域における防災リーダーの育成を図る。

○地域防災力向上を図るため、防災士の養成に取り組む。

○自主防災組織、社会福祉協議会等と共同し、避難行動要支援者に対する個別計画の作成を推進する。

○総合防災訓練の実施  
市と自治会や自主防災組織が一体となって総合的かつ実践的な訓練を実施することで、相互の協力体制の確立及び地域住民の防災意識の高揚を図る。

○水防団（消防団）の確保  
水防団(消防団)の確保対策の重点取組として、消防団協力事業所及び消防団応援の店の拡充と制度周知を図る



滝沢市

1/2

【R4年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 新たな浸水想定区域を反映したハザードマップを作成した。
- 新しいハザードマップを全戸に配布するとともに、新しくたきざわeマップを整備した。



ハザードマップの更新



たきざわeマップ

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 自主防災訓練等で、地域住民に対してさらなる周知を図る。
- 滝沢市地域防災リーダー養成講座を開催し、防災知識を深める。



自主防災訓練の開催



滝沢市地域防災リーダー養成講座の開催

滝沢市

2/2

【R4年度取組状況】

○令和3年度に公表された諸葛川等の新しい浸水想定区域に対応したハザードマップを作成した。（令和4年3月22日公表）

○新しいハザードマップを全戸に配布するとともに、新しくたきざわeマップを整備した。

○令和4年12月10日に、「滝沢市地域防災リーダー養成講座」を実施し、新たに6名を認定した。

【R5年度取組予定】

○昨年度に引き続き、自主防災組織や地域住民を対象とした、水害リスクや防災に関する知識の普及（出前講座等の実施）。

○昨年度に引き続き、災害時における地域のリーダーとして主導的な役割等を担う滝沢市地域防災リーダー養成講座の実施する。

## 雫石町

1/2

## 【R4年度実施状況】

## Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

自主防災組織や地域住民へハザードマップ説明会、出前講座、水防訓練等の実施などによる知識普及活動

- 雫石町防災マップの一部内容の更新を行い、避難情報等を最新にするとともに、世帯配布等により全戸配布し、町民に周知を行った。
- 自主防災組織等からの依頼に基づき、防災講話を行い、地域の災害のリスクの説明



防災マップのデータ及びシールによる一部内容の更新



自主防災組織等に対する防災講話

## 【R5年度取組内容】

## Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

自主防災組織や地域住民へハザードマップ説明会、出前講座、水防訓練等の実施などによる知識普及活動

- 自主防災組織に対する防災講座・訓練並びに学校等の防災学習において地域の水害リスク等を継続的に周知する。
- 岩手県総合防災訓練において、避難情報の伝達及び情報に基づく避難訓練等を行う。



県防災訓練への参加



自主防災組織等に対する防災講話

## 雫石町

2/2

## 【R4年度取組状況】

- 自主防災組織、老人会及び道の駅等が計画する防災講座等において地域の水害及び土砂災害等のリスクについて説明を行った。

○9月第1週に町総合防災訓練を行い、御明神地区において水害に伴う避難訓練及び町営体育館において感染症対策を考慮した避難所の開設・運営訓練等を行い、防災意識の高揚及び地域防災力の向上を図った。

○県が実施した防災士養成研修に町から2名参加し、防災士の育成を行い地域の防災リーダーの育成を図った。

○県が実施した防災リーダー研修会に参加し、地域の防災リーダーの育成を図った。

○災害対策基本法の一部改正に伴い、令和2年度に作成した「雫石町防災マップ」の内容を最新のものにするため、マップデータの更新及びマップの更新場所のシールを作成し、全戸配布を実施

## 【R5年度取組予定】

- 自主防災組織が計画する防災講座及び小中学校の防災学習等において、地域の水害リスク及び避難情報について周知を図り、防災意識の高揚を図る。

○令和5年度北上川上流総合水防演習に、雫石町消防団が参加するのに伴い、水防技術の向上及び防災意識の高揚を図る。

○岩手県総合防災訓練への参加により、土砂災害に対する避難訓練及び感染症対策を考慮した避難所の開設・運営訓練等を行い、防災意識の高揚及び地域の防災力の向上を図る。

○県が実施する防災士養成研修に参加し、防災士の育成及び地域の防災リーダーの育成を図る。

## 岩手町

1 / 2

## 【R4年度実施状況】

## ②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 浸水想定区域を反映した防災マップを活用した洪水避難訓練を実施した。
- 町を会場として、北上川上流盛岡地区合同水防訓練を実施し、関係機関と連携した訓練を行った。



北上川上流盛岡地区合同水防訓練の実施



総合防災訓練

## 【R5年度取組内容】

## Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 出前講座を開催し、地域住民に対してさらなる周知を図る。
- 総合防災訓練で自主防災組織や地域住民に、水防資機材等の説明を行い水防の知識を深める。



出前講座の開催



水防資機材の説明

## 岩手町

2 / 2

## 【R4年度取組状況】

○防災拠点や防災倉庫及び指定避難所に置いている防災用品の備蓄を勧めた。

○役場職員及び公民館職員等指定避難所担当職員による避難所における感染症対策を踏まえた訓練を実施した。

○一方井小学校、一方井中学校及びその周辺で訓練を実施。防災関係機関と地域住民が一体となって総合的かつ実践的な訓練を実施することで、相互の協力体制の確立及び防災意識の高揚を図った。

○地域防災計画、業務継続計画、受援計画、岩手町消防計画の更新を図り、避難情報の判断・伝達マニュアルを策定した。

○町を会場として、北上川上流盛岡地区合同水防訓練を実施し、関係機関と連携した訓練を行った。

○県が実施した防災士養成研修に町から推薦した4名が受験し防災士の育成を行い地域の防災リーダーの育成を図った。

## 【R5年度取組予定】

○一関市で開催される北上川上流総合水防演習に岩手町水防団を派遣し参加する。

○役場職員及び公民館職員等指定避難所担当職員による避難所における感染症対策を踏まえた訓練を実施する。

○引き続き防災士育成に努め、地域防災リーダーの育成を図る。

○川口小学校、川口保育所及びその周辺で訓練実施を予定しており、防災関係機関と地域住民が一体となって総合的かつ実践的な訓練を実施することで、相互の協力体制の確立及び防災意識の高揚を図る。

○地域防災計画、業務継続計画、受援計画、岩手町消防計画の更新を図り、避難情報の判断・伝達マニュアルの更新を図る。

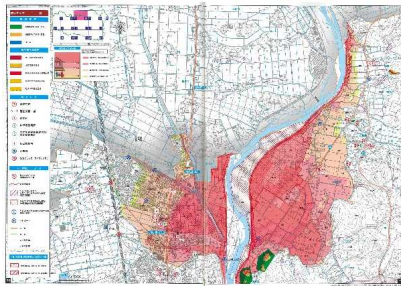
紫波町

【R4年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

防災マップの更新

- 新たな浸水想定区域を反映したハザードマップを作成した。
- ご家庭で保管しやすいよう冊子版に変更。



防災マップの更新

新たな浸水想定区域を反映

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

防災訓練及び自主防災組織研修会の実施

- 住民参加による総合防災訓練を実施し、地域住民と防災関係機関が協力体制を築き、地域防災力の強化を図る。
- 自主防災組織リーダー研修会を実施し、個別避難計画の普及推進を図る。



防災訓練の開催



自主防災組織研修会の実施

紫波町

【R4年度取組状況】

○令和4年2月に示された岩崎川、太田川の浸水想定区域に対応したハザードマップを作成、完成した。

○令和4年9月4日に、台風の影響による大雨災害を想定した「紫波町総合防災訓練」を実施し、地域住民と防災関係機関が協力体制の確立を図るとともに、地域住民の防災意識の高揚を図った。

○令和5年2月18日に、「紫波町自主防災組織リーダー研修会」を開催し、地域住民相互の協働による防災力の強化を図った。（参加者：37名）

【R5年度取組予定】

○前年度に完成した新しいハザードマップを全戸に配布し、町民に周知する。

○前年度中に完成したハザードマップに関する地域住民説明会を開催し、水害リスクや避難場所等について、地域住民に対してさらなる周知を図る。

○昨年度に引き続き、「紫波町防災訓練」を開催し、自主防災組織の育成と地域防災力の向上を図る。

○ハザードマップを活用した地区防災訓練を実施し、地域住民同士で防災知識を深め、防災意識の高揚を図る。

○昨年度に引き続き、「紫波町自主防災組織リーダー研修会」を実施する。

【R4年度実施状況】

【R5年度取組内容】

I. 安全な避難行動のための取組

I. 安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 岩崎川等の新たな浸水想定区域を反映した防災マップ（冊子版）の更新（令和5年3月）
- 防災マップへのマイタイムライン等の取入れ



防災マップ（冊子版）の更新

マイタイムラインの取入れ

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

- 更新した防災マップを全戸配布するとともに、町広報誌・HP、防災ラジオ、TVデータ放送、並びに住民説明会の開催により、地域住民に対して更なる周知を図る。
- 防災マップ（WEB版）の更新



住民説明会の開催

【R4年度取組状況】

【R5年度取組予定】

- 岩崎川など中小河川の新たな浸水想定区域を踏まえ、各河川の想定最大規模降雨に対応し、かつ、内水ハザード等を取り入れた防災マップ（冊子版）を更新した。
- 要配慮者のうち、医療的ケア児を主対象とした要配慮者用の避難所開設・運営訓練を実施し、家族を含めた避難所受け入れ体制の基礎を確立した。
- 要配慮者利用施設の防災対策に係る現況を把握するとともに、地域として災害弱者の逃げ遅れを防止するための連絡・連携体制を強化した。
- 防災ラジオの普及拡大施策として、洪水浸水想定区域世帯などの無償貸与枠を拡大した。
- 自主防災組織や防災士を対象とした育成講座を開催し、地区における防災訓練や避難行動要支援者の避難支援の在り方について認識を共有した。
- 県防災士養成事業を活用し、あらたに21名の防災士を養成するとともに、令和5年3月に、これまでに養成した111名の防災士による「矢巾町防災士ネットワーク」を構築した。

- 更新した防災マップを全戸配布するとともに、防災マップ（WEB版）を更新し、町広報誌・HP、防災ラジオ、TVデータ放送による周知、並びに住民説明会の開催により、地域住民に対して普及を図る。
- 要配慮者利用施設の防災対策に係る現況を継続的に把握し、避難確保計画の作成支援を行うとともに、避難訓練等により計画の検証に協力し、避難の実効性を向上する。
- 地区において、自主防災組織が主導する地区住民を対象とした防災訓練等を支援し、「自助」「共助」の向上を図る。
- 昨年度に引き続き、自主防災組織及び町防災士を対象とした育成講座を実施し、最新の防災に関する情報提供及び知識等を付与する。
- 昨年度に引き続き、県防災士養成事業を活用し、町防災士を養成する。この際、女性の積極的な参画を周知する。

西和賀町

【R4年度実施状況】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

自主防災組織や地域住民を対象とした、水害リスクや防災に関する知識の普及（ハザードマップ説明会、出前講座、水防訓練等の実施等）

令和3年度に更新したハザードマップについて、広報誌への掲載や地区を対象とした説明会等を実施する。



出前講座の実施



更新したハザードマップ

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

自主防災組織等の住民主体による「避難時の声掛け」や「避難誘導」を含む訓練の実施

効果的な役割分担や避難所運営、今後の連携強化を図るため、町と各自主防災組織が共同で防災訓練を実施。



訓練の様子

西和賀町

【R4年度取組状況】

○令和3年度に更新した、新たな浸水想定区域に対応したハザードマップの説明会を行った。

○自主防災組織や要配慮者利用施設と連携した訓練を行った。

○緊急時の内部組織の確立を図るため、課内職員を対象に研修会を実施し、防災意識の向上や連携強化を図った。

○新たな機関と協定を締結し、災害時の連携強化を推進した。

【R5年度取組予定】

○ハザードマップの説明会を行う。

○自主防災組織や要配慮者利用施設と連携した訓練を行う。

○円滑な災害対応業務を行うため、人的応援の受入れに関する受援計画の策定を推進する。

○緊急時の内部組織の確立を図るため、職員を対象に研修会を実施し、防災意識の向上や連携強化を図った。

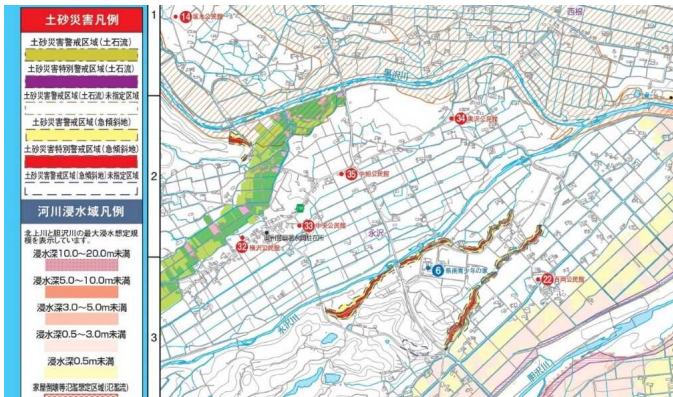
金ヶ崎町

【R4年度実施状況】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

新たに指定された洪水浸水想定区域を反映した町防災マップを更新

- 岩手県が新たに指定した河川の洪水浸水想定区域を反映した町防災マップを更新した。
- 町内の防災士の資格所有者による組織化にむけて協議を重ねた。



ハザードマップの更新

【R5年度取組内容】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

自主防災組織等を対象とした避難時の声かけや避難誘導などの訓練を実施

- 浸水想定区域や土砂災害警戒区域を対象に避難訓練を実施する。実施にあたって地域住民などによる声掛けなども行いながら、自助、共助による地域の防災力を高める。



金ヶ崎町

【R4年度取組状況】

- 自主防災組織研修会  
アンケート調査の実施し、今後の活動や組織の課題把握を行った
- 防災士の育成及び活用  
防災士の育成と防災士の活躍の場の確保に向けた組織化について有資格者と協議を行った
- 町防災マップの更新  
町防災ハザードマップについて、令和3年度に岩手県から新たに指定のあった胆沢川の洪水浸水想定区域を反映したものに更新した

【R5年度取組予定】

- 防災訓練の実施  
浸水想定区域や土砂災害警戒区域を対象に避難訓練を実施する。実施にあたって地域住民などによる声掛けなども行いながら、自助、共助による地域の防災力を高める
- 防災士の育成及び活用  
引き続き、防災士の育成を図るほか、町内の防災士の活躍の場の確保にむけ組織化をし、町内の自主防災組織や各種団体等で実施する防災講座や防災訓練等に派遣する事業の仕組み作りを行う
- 防災マップの活用・周知  
前年度に完成した防災マップを活用し学習会の開催や避難場所等について、地域住民に対してさらなる周知を図る。

【R4年度実施状況】

I. 安全な避難行動のための取組

住民への情報伝達体制の充実

○防災行政無線のデジタル化を推進し、情報伝達体制の充実を図った。  
○屋外拡声子局での放送のほか、町内約1,900世帯に個別受信機を配布し、災害発生時における避難情報等の迅速な情報伝達の整備を行った。



デジタル化に対応した  
防災行政無線



広範エリアをカバーする  
西行桜の森中継局

【R5年度取組内容】

I. 安全な避難行動のための取組

水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○町内21自主防災会を中心に水害リスク等を学ぶ研修会を開催しながら、地域住民の連携による避難行動の迅速化と地域防災力の強化を図る。



地域防災力の強化を図るための研修会の開催

【R4年度取組状況】

○激甚災害の発生確率が高まる中、自主防災会連合会組織主催の研修会を開催。

⇒「北海道・三陸沖後発地震注意情報」に関する学習会を開催し、防災対応の基本的な考え方を学びながら、地域住民が連携した防災対応の知識向上を図った。

○岩手県の防災士養成事業を活用し、防災士1名を養成した。

⇒令和4年度は養成講座に1名受講し、リーダー育成を図った。  
次年度においては、防災士養成研修会への参加2名を目標とし、地域防災のエキスパート人材の育成を更に図っていく。

【R5年度取組予定】

○ハザードマップを活用しながら地域住民説明会等を通して、水害リスクや避難場所等についての更なる周知を図る。

○高齢者等要支援者に対する災害時の迅速な対応を図るための地域防災訓練の実施を検討する。

○「平泉町自主防災組織研修会」を開催しながら、自主防災組織の育成と地域防災力の向上を図るもの。

○地域住民への防災情報の確実な伝達を図るため、昨年度導入したデジタル防災無線の各戸配布を更に推進する。



東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社

【R4年度実施状況】

I. 安全な避難行動のための取組

ホットライン連絡体制の構築

- 台風・低気圧の時期前までに迅速かつ的確な防災体制が図れるよう、関係自治体等の連絡先の確認を進めた。
- 台風・低気圧による河川増水・氾濫等に鑑み、ハザードマップ上、浸水深の影響が高い車両基地に留置する鉄道車両を事前回送するため、関係自治体に確認を進めた。



ハザードマップを確認後、関係自治体等に予測を確認

留置車両の事前回送

【R5年度取組内容】

I. 安全な避難行動のための取組

ホットライン連絡体制の構築

ICTを活用した洪水、防災に関する各種情報発信の充実

- 報道機関を通じた情報発信のほか、自社HP上での運行計画を都度、前広に情報共有を継続して実施する。
- 台風・低気圧の時期前までに迅速かつ的確な防災体制が図れるよう、関係自治体等の発信情報収集を進める。



自社HP上での運行情報

Lアラートを活用した発表情報収集

東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社

【R4年度取組状況】

- 沿線自治体が作成するハザードマップの更新状況に合わせて、Microsoft Teamsを活用し、駅や運輸区等の社内職場（駅業務委託会社含む）に情報展開を図った。
- 関係する沿線自治体等へ連絡先の確認を進めながら、発災時における早期列車運行の発表に繋げる連絡体制を構築した。
- 台風・低気圧による河川増水・氾濫等に鑑み、沿線自治体が作成するハザードマップを活用し、浸水深の影響が高い車両基地に留置する鉄道車両を、予め事前回送させた。

【R5年度取組予定】

- 沿線自治体が作成するハザードマップやLアラート（財マルチメディア振興センター）を活用し、事前の避難情報等の収集を進め、発災時における早期列車運行の発表に繋げていく。
- 昨年度に引き続き、台風・低気圧による河川増水・氾濫等に鑑み、沿線自治体が作成するハザードマップを活用し、浸水深の影響が高い車両基地に留置する鉄道車両を、予め事前回送させる取組みを必要に応じて実施していく。
- 昨年度に引き続き、JR及びJRグループ会社による総合防災訓練をJR東日本盛岡支社の各地区で実施することとし、沿線自治体、消防、警察等の防災関係機関と連携した訓練のほか、各地区では、駅構内、列車、駅ビル等からの避難誘導訓練、多言語を含むお客さまへの情報提供訓練等を行い、対応強化を図っていく。

## 盛岡地方気象台

1 / 2

## 【R4年度実施状況】

## ②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

## 「あなたの町の予報官」等による地域防災支援業務を強化

## 適時適切な防災気象情報の提供

## 平常時

- ・防災メールや「あな町TV（週1回）」等による解説
- ・研修や訓練への協力  
⇒訓練シナリオ作成、ワークショップ、勉強会等
- ・地域防災計画や避難マニュアル作成への協力

## 緊急時

- ・台風説明会、ホットライン、気象台からのコメント  
⇒利用者の立場に立った情報提供
- ・岩手県風水害対策支援チームへの情報提供
- ・J E T Tの派遣  
⇒大規模な災害時に、県や市町村へJ E T T（気象庁防災対応支援チーム）として気象庁職員を派遣し、現場のニーズや各機関の活動状況を踏まえた気象等のきめ細かな解説を行います。

## 【R5年度取組内容】

## Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

## 引き続き、地域防災支援業務の強化を図る

## 適時適切な防災気象情報の提供

- ・「あな町TV（週1回）」等による解説
- ・市町村訪問の実施
- ・市町村の研修や、防災訓練への協力
- ・地域防災計画や避難マニュアル作成への協力
- ・台風説明会、ホットライン、気象台からのコメント等
- ・岩手県風水害対策支援チームへの情報提供
- ・J E T Tの派遣  
⇒大規模な災害時に、県や市町村へJ E T T（気象庁防災対応支援チーム）として気象庁職員を派遣

## 盛岡地方気象台

2 / 2

## 【R4年度取組状況】

- 1) 局地化、集中化、激甚化する雨の降り方に対応した防災情報の充実として、
  - 指定河川洪水予報の氾濫危険情報の運用改善を実施
  - 線状降水帯予測を開始
  - 気象庁IPで、水害リスクラインと洪水キキクルの一体化を開始
- 2) 平常時には、
  - 毎週金曜日に「あな町TV」による気象解説を実施
  - 岩手県と協力して、市町村の防災担当者へ気象防災ワークショップを実施。
- 3) 緊急時には、
  - オンライン会議システムを利用した台風説明会を実施
  - 市町村防災担当者へホットラインを実施

## 【R5年度取組予定】

- 平常時においては、
- 毎週金曜日に実施している「あな町TV」による気象解説を実施
  - 市町村を訪問し、防災担当者に防災気象情報の解説を実施し、意見を聴く等し顔の見える関係を築く
  - 市町村の職員研修や勉強会で「防災気象情報の利活用」について説明したり、気象防災ワークショップを実施する。また、防災訓練の訓練シナリオ作成に協力する。
  - 地域防災計画や避難マニュアル・タイムライン作成に協力する。
- 緊急時には、
- オンライン会議システムを利用した台風説明会の実施、ホットライン、気象台からのコメント等、利用者の立場に立った情報提供に努めます。
  - 岩手県風水害対策支援チームへの情報提供
  - 大規模な災害時に、県や市町村へJ E T T（気象庁防災対応支援チーム）として気象庁職員を派遣し、現場のニーズや各機関の活動状況を踏まえた気象等のきめ細かな解説を行います。

## 岩手県 復興防災部 防災課

1/2

## 【R4年度実施状況】

## Ⅲ. 人命と財産を守るための取組

浸水想定区域内にある重要施設などへの情報伝達の充実

## ・ 岩手県風水害対策支援チームの活動

令和4年6月に、台風接近時の風水害対策支援チーム事務局の災害対応力の向上を図るため、風水害対策支援チーム運営訓練を実施した。

同年9月の台風14号接近時に、岩手県風水害対策支援チームを1回招集し、市町村に対する注意喚起を行った。

平常時は气象台等と連携し、17市町村において、防災気象情報の活用、災害情報システムの操作、災害への初動対応や図上訓練等に係る研修を実施した。

## 【R5年度取組内容】

## Ⅲ. 人命と財産を守るための取組

浸水想定区域内にある重要施設などへの情報伝達の充実

## ・ 岩手県風水害対策支援チームの活動

## 台風接近時

岩手県風水害対策支援チームを招集し、市町村に対する助言内容を検討し、必要な助言を行う。

## 平時

气象台等と連携し、15市町村において防災気象情報の活用、災害情報システムの操作、災害への初動対応や図上訓練等に係る研修を実施する。

## 岩手県 復興防災部 防災課

2/2

## 【R4年度取組状況】

風水害対策支援チームの活動を継続し、市町村への避難指示等発令を支援するとともに、市町村研修会への講師派遣などを行った。

また、自主防災組織等に対する地域防災サポーターの派遣（令和4年度：52回派遣、4,729人研修等受講）を継続し、自主防災組織の活性化等を支援した。

さらに、市町村と連携し、自主防災組織の中核となって活動できる人を対象とし、防災士の資格取得のための研修会（令和4年度：74人養成）を実施した。

## 【R5年度取組予定】

風水害対策支援チームの活動を継続し、市町村への避難指示等発令を支援するとともに、市町村研修会への講師派遣などを行う。

また、自主防災組織等に対する地域防災サポーターの派遣を継続し、自主防災組織の活性化等を支援する。

さらに、市町村と連携し、自主防災組織の中核となって活動できる人を対象とし、防災士の資格取得のための研修会を実施する。

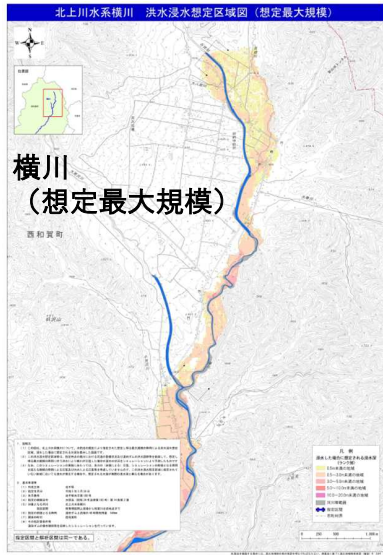
岩手県県土整備部

【R4年度実施状況】

I. 安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨による水害リスク（浸水想定区域図）の作成・公表

- 令和5～7年度の洪水浸水想定区域の指定計画を策定
- 洪水浸水想定区域指定4ヶ年計画に基づき、7河川（うち、当圏域は横川）を新規指定。



【R5年度取組内容】

I. 安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨による水害リスク（浸水想定区域図）の作成・公表

- 洪水浸水想定区域指定4ヶ年計画に基づき、70河川（うち、当圏域は滝名川等の53河川）を新規指定予定。

洪水浸水想定区域指定4ヶ年計画

	全体計画	うち北上川上流圏域
R4	7河川（新規指定） 23河川（見直し）	1河川（新規指定） 7河川（見直し）
R5	70河川（新規指定） 2河川（見直し）	53河川（新規指定） 2河川（見直し）
R6	85河川（新規指定） 4河川（見直し）	83河川（新規指定） 2河川（見直し）
R7	81河川（新規指定） 1河川（見直し）	5河川（新規指定）
合計	243河川（新規指定） 30河川（見直し）	142河川（新規指定） 11河川（見直し）

※詳細は取組方針に掲載

岩手県県土整備部

【R4年度取組状況】

- 水位周知河川指定4ヶ年計画に基づき、2河川（うち、当圏域はなし）について、水位周知河川の指定を行った。
- 水位計設置4ヶ年計画に基づく3河川（うち当圏域は衣川の1河川）については未完了（着手済み）につき、令和5年度に継続して実施。
- 洪水浸水想定区域指定4ヶ年計画に基づき、7河川（うち、当圏域は横川の1河川）について、洪水浸水想定区域の指定した。
- いわてわんこ広報室（県の広報番組）にて、流域治水に関する情報発信を行った。
- 岩手県で管理する水位局、雨量局のネットワーク（振興局と県庁間）に衛星回線を追加し、災害時の情報発信機能の冗長性を確保した。
- ライン及びTwitterで河川の水位情報の発信を開始した。
- ハザードマップ作成における防災・安全交付金の活用を支援した。

【R5年度取組予定】

- 水位周知河川指定4ヶ年計画に基づき、2河川（うち、当圏域はなし）について、水位周知河川の指定を行う予定。
- 水位計設置4ヶ年計画の令和4年度分の3河川（うち当圏域は衣川の1河川）について継続実施。令和5年度分の1河川（うち当圏域はなし）について、新規設置を予定。
- 洪水浸水想定区域指定4ヶ年計画に基づき、70河川（うち、当圏域は滝名川等の53河川）について、洪水浸水想定区域の新規指定を行う予定。
- 近年設置した危機管理型水位計326基、監視カメラ146基の継続運用。
- ハザードマップ作成における防災・安全交付金の活用を支援する。

北上川ダム統合管理事務所

【R4年度実施状況】

I. 安全な避難行動のための取組

ダム放流情報の内容や通知のタイミングの改善など、住民の避難行動につながる情報提供

○緊急放流（異常洪水時防災操作）時の放流警報音  
管内5ダムにおいて、緊急効果音を追加した警報訓練を防災担当者及び地域の方々と実施

○行政機関だけでなく、沿川の地区長など地域住民も参加



警報訓練状況（四十四田ダム）

警報訓練状況（湯田ダム）

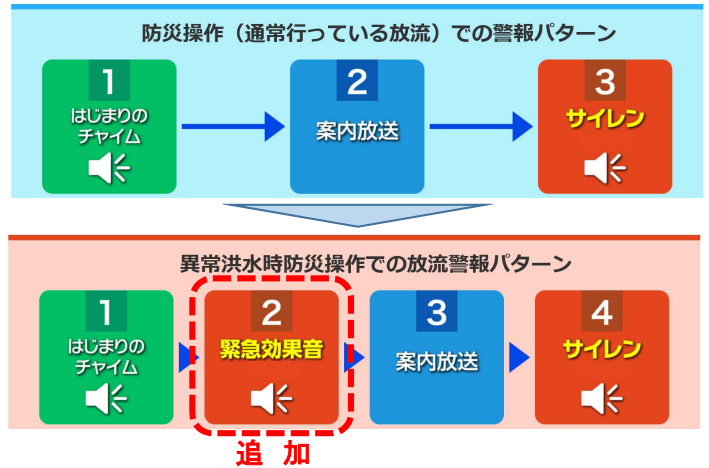
※5ダムで令和4年6月に実施。

【R5年度取組内容】

I. 安全な避難行動のための取組

ダム放流情報の内容や通知のタイミングの改善など、住民の避難行動につながる情報提供

○緊急放流（異常洪水時防災操作）時の放流警報音  
管内5ダムにおいて、緊急効果音を追加した警報訓練を防災担当者及び地域の方々と実施（6月8日から6月15日）。



緊急放流へ移行する際には、より切迫感を持って緊急性を伝えられるよう、緊急効果音を追加。（令和2年6月）

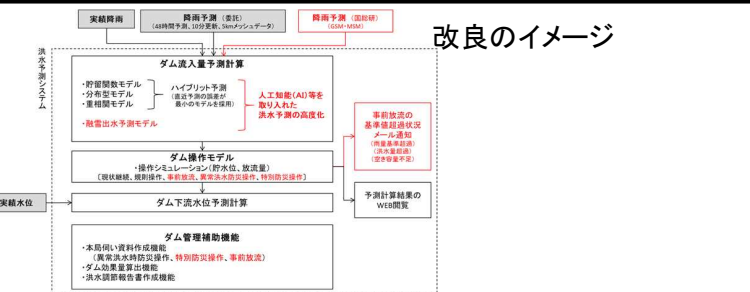
北上川ダム統合管理事務所

【R4年度実施状況】

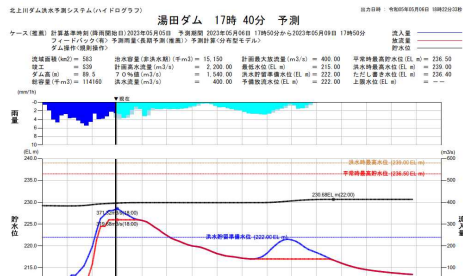
I. 安全な避難行動のための取組

AI等を活用したダム流入量の予測精度向上

○改良した洪水予測システムを使用し、精度向上に努める。



【システム内容】  
黒文字：従来  
赤文字：改良箇所



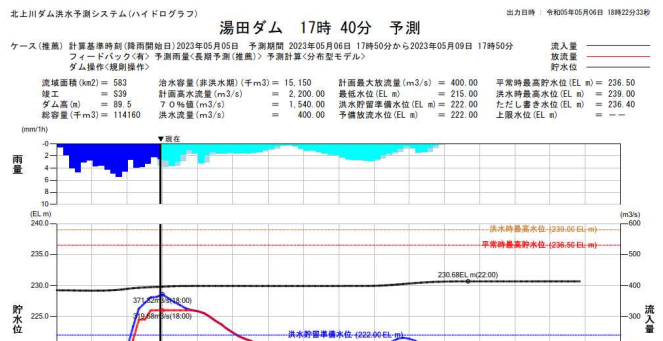
融雪出水時の予測結果（事例）

【R5年度取組内容】

I. 安全な避難行動のための取組

AI等を活用したダム流入量の予測精度向上

○改良した洪水予測システムを使用し、精度向上に努める。（継続実施）



北上川ダム統合管理事務所

【R4年度実施状況】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

ダムについて、定期的にその効果や機能等について住民等へ周知

○各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を引き続き実施。※

○ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を実施。



出前講座でダムの役割と情報発信について説明



※ダム下流の地域の方々を対象に年2回程度実施。

【R5年度取組予定】

Ⅱ. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

ダムについて、定期的にその効果や機能等について住民等へ周知

○各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を引き続き実施。※

○ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を実施。



防災訓練に参画



ダム見学や出前講座で効果等の説明

※ダム下流の地域の方々を対象に年2回程度実施予定。

北上川ダム統合管理事務所

【R4年度実施状況】

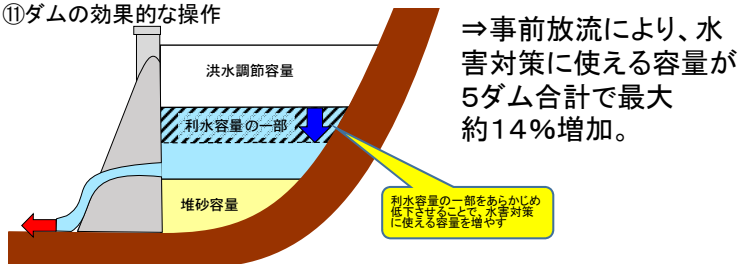
Ⅲ. 人命と財産を守るための取組

⑪ダムの効果的な操作（柔軟な運用） ⑫ダム再生

○予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流を実施。（R4は対象となる降雨なし）

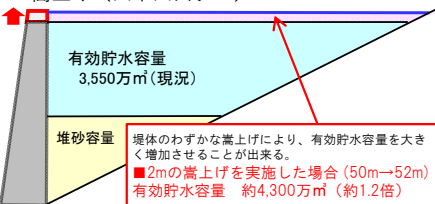
○四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を実施。

⑪ダムの効果的な操作



⑫ダム再生

■ 嵩上げ（四十四田ダム）



【R5年度取組予定】

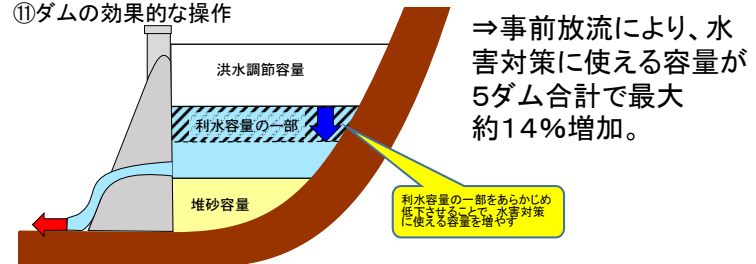
Ⅲ. 人命と財産を守るための取組

⑪ダムの効果的な操作（柔軟な運用） ⑫ダム再生

○予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流を実施する。

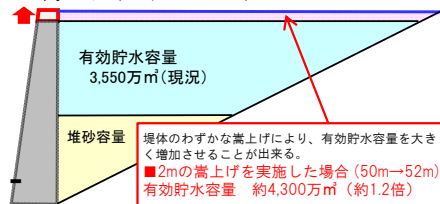
○四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を継続実施。

⑪ダムの効果的な操作



⑫ダム再生

■ 嵩上げ（四十四田ダム）



## 【R4年度取組状況】

- 警報内容を地域住民の方に認識していただくとともに、スピーカからの音達範囲を確認するため警報訓練を、自治体防災担当者及び、地域住民も参加の上、実施した。
- 報道機関を対象としたダム操作・警報に関する説明会を実施した。
- 安全な避難行動のための取組として、AIを活用した洪水予測システムを実装し、ダム操作の精度向上に努めた。
- 各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を実施した。
- ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を実施した。
- 予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流の検討を実施した。（対象となる降雨はなし）
- 四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を実施した。

## 【R5年度取組予定】

- 警報内容を地域住民の方に認識していただくとともに、スピーカからの音達範囲を確認するため警報訓練を実施する。（6月8日から15日）
- 報道機関を対象としたダム操作・警報に関する説明会を行う。
- 安全な避難行動のための取組として、AIを活用した洪水予測システムを使用し、精度向上に努める。（継続）
- 各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を実施する。
- ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を実施する。
- 予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流を実施する。
- 四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を実施中。

岩手河川国道事務所

【R4年度実施状況】

I. 安全な避難行動のための取組

河川監視カメラの画像・映像など災害情報の積極的な配信の充実

○事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報を配信している。



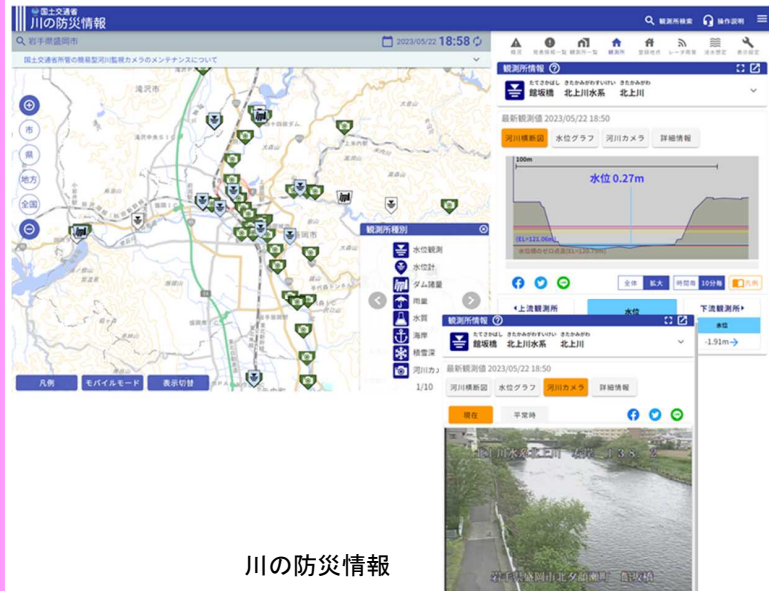
事務所HPでの提供状況

【R5年度取組内容】

I. 安全な避難行動のための取組

河川監視カメラの画像・映像など災害情報の積極的な配信の充実

○事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報及び水位・雨量情報の配信継続及び機器の維持管理。



岩手河川国道事務所

【R4年度実施状況】

II. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

○自治会や学校、地域住民を対象とした出前講座にて、水害リスクやダム・堤防等の防災施設に関する知識の普及活動を実施した。



【R5年度取組内容】

II. 地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

○自治会や学校など地域住民を対象とした、水害リスクやダムや堤防等の防災施設に関する知識、マイタイムラインや防災情報の入手等に関する普及活動を実施する(出前講座など)。





岩手河川国道事務所

3/4

【R4年度実施状況】

Ⅲ. 人命と財産を守る水防活動及び排水活動の取組

水防団や地域住民への、洪水に対するリスクが高い箇所（重要水防箇所など）の確実な伝達

○水防活動関係者と重要水防箇所合同巡視を行い、危険箇所の情報共有を行った。



【R5年度取組内容】

Ⅲ. 人命と財産を守る水防活動及び排水活動の取組

水防団や地域住民への、洪水に対するリスクが高い箇所（重要水防箇所など）の確実な伝達

○水防活動関係者と重要水防箇所合同巡視を行い、危険箇所の情報共有を行う。



岩手河川国道事務所

4/4

【R4年度取組状況】

○水害リスクに関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

自治会や学校など地域住民を対象とした出前講座にて、水害リスクやダム・堤防等の防災施設、マイ・タイムラインに関する知識の普及活動を実施した。

○河川監視カメラの画像・映像などの災害情報の積極的な配信の充実

事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報の配信を継続している。あわせて水位・雨量情報も配信し一般の方が情報を入手することが出来るようになっている。

○重要水防箇所合同巡視

洪水時におけるリスクが高い箇所の確実な伝達を目的に水防団等との重要水防箇所合同巡視を実施した。

○水害対応「タイムライン」の改善や見直し

災害対策基本法の改正等を踏まえたタイムライン見直しの必要性について、大規模氾濫減災協議会幹事会、洪水予報・水防連絡会にて情報提供を行った。

【R5年度取組予定】

○水害リスクに関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

自治会や学校など地域住民を対象とした、水害リスクやダム・堤防等の防災施設、マイ・タイムラインや防災情報の入手に関する知識の普及活動を実施する(出前講座など)。

○河川監視カメラの画像・映像などの災害情報の積極的な配信の充実

事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報の及び水位・雨量情報の配信継続及び機器の維持管理。

○重要水防箇所合同巡視

洪水時におけるリスクが高い箇所の確実な伝達を目的に水防団等との合同巡視を実施する。

○他機関連携型タイムラインを順次展開

河川・気象情報の提供やこれを受けた市区町村による避難情報の発令など、基本的な行動を時系列で整理するタイムラインを、流域などの単位で関係自治体をまとめて作成し、運用するとともに、活用による気づきを修正し改善を図っていく。